

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902439		
法人名	医療法人社団 及川医院		
事業所名	グループホーム おいかわ 1階		
所在地	旭川市豊岡4条10丁目4番1号		
自己評価作成日	令和元年9月10日	評価結果市町村受理日	令和元年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム『おいかわ』の基本理念に基づき、入居者さんが安らぎ・幸福感と安心が感じられ個人として尊重され、その人に合わせた能力を最大限に発揮でき、自主的な決定を行えるように支援し、生活が向上するように支援させていただくように心掛けている。医療機関が経営主体なので健康管理・急変時の対応など迅速に対応できるように取り組んでいます。身体拘束等適正化委員会を年4回以上・身体拘束廃止研修を年2回以上開催しています。及川院長や看護師さんが週1回訪問して入居者さんの健康管理をしている。透析患者さんも入居しています。要介護4・5の入居者さんも18名中7名平均介護度も3で平均年齢は90歳です。介護職員も安定し3年以上勤務の職員が70%以上勤務し入居者さんとも和やかに生活している。夏祭り・クリスマス会などを催し家族だんらんができるようにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902439-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は旭川市の郊外にあり、鉄骨造り2階建て2ユニットで閑静な住宅街に立地し、バス停からも至近距離にある。母体が医療法人であり、週1回の往診や緊急時の受診が行われ、さらに、透析など医療依存度の高い利用者を受け入れている。要望があれば、終の棲家として暮らし続けられる環境にあり、利用者や家族の安心に繋がっている。広々とした居間には、食堂と寛げる応接セットが備え付けられ、メリハリのある生活環境を整備している。夏祭りやクリスマス会は、家族は基より地域住民や地域包括職員の参加が得られ、利用者を共に支える関係者との交流の場となっている。利用料は持参とし、利用者との面会に繋げるなど、途切れない関係作りにも努めている。管理者と職員の間も良好な中、利用者に対して自身に置き換え不快になるケアはしないなど、利用者主体の理念に沿ったケアサービスに努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は基本理念に基づき、個人として尊重しプライバシーを守り、安心・安全と尊厳のある生活ができるように業務に専念している。各ユニット及び事務室に基本理念及び身体拘束排除宣言を掲示している。	利用者を主体とした理念を策定している。各ユニットに掲示して職員の意識付けに繋げ、理念の実践は会議で確認している。地域との関係性を、理念に盛り込むかを検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設当初より町内会には入会し、町内会行事等(イベント・ごみ回収・清掃等)には参加するように努めている。夏祭りでは町内会の人などが参加して地域とのつながりを深めている。	高齢化により、町内会活動への参加は困難だが、職員は、機会を捉えて顔を出している。「おいかわ夏祭り」には、大雪民謡クラブによる芸能披露や、地域住民、地域包括職員、家族の参加があり、親交を温めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人の入居者家族や見学者の話の中で認知症やホームの役割等を話し理解を求めている。認知症サポーターステップ研修施設ボランティアに協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、災害対策・インフルエンザ・食中毒・行事の予定などホームの取組や課題などを検討しサービスの向上に生かしている。	会議は年6回行われ、大半は夏祭り等の行事に合わせている。同時に、身体拘束等適正化委員会も行われ、適切な支援であるかを確認している。行政や地域住民の参加が少ない状況にある。	行政や町内会関係者の参加により、活発な意見交換の場となるよう、参加要請を検討しているので、その取り組みと、あわせてメンバーからの意見引き出しにも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や包括支援センター等の研修会にも参加するように心掛けている。わからないことは市の担当部署に問い合わせる関係を築くように心がけている。	事故報告等の提出物や運営上での相談は、施設長や管理者が担当窓口を訪れ、助言や意見を得ている。地域包括支援センター主催の行事には、運営者や職員が講師として協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議・フロア会議において身体拘束禁止・勉強に取り組んでいる。日頃より身体拘束になる行為を認識し身体拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束適正化委員会を設置している。	適正化に向けて指針を整備し、委員会や研修会を定期的に開催することにより、職員の意識統一に繋げている。事業所内に身体拘束排除宣言書を掲示し、実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議・運営推進会議等で、虐待等について話し合い虐待の防止に努め、細かいことでも注意しあえる様にし虐待を見逃すことのないように確認しあっている。年4回以上の身体拘束等適正化委員会を開催する予定。勉強会も2回以上開催。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員が外部の研修に参加するように促している。必要があれば各制度を理解し活用できるように努めたい。過去に成年後見制度を活用したことはないが職員が勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約凍結時に必ず家族等に十分時間をとり契約書・重要事項説明書等を説明・同意をいただいている。不安や疑問の際はその都度、説明し理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんやご家族の思いや要望事項等を気軽に話せる雰囲気を作り、思いや要望事項を反映するように心がけている。各ユニット入口に意見箱を設置している。	利用料は、事業所持参とし、面会促進や家族の要望や意見を聴く機会となっている。家族参加型の行事を企画し、共に利用者を支える関係作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員と気軽に話し合いできる機会を設けている。朝礼での申し送り時・全体会議・各フロア一会議で意見や要望・提案を出し合い業務に反映できるようにしている。	施設長や管理者は、意見を言いやすい環境作りに努め、日々の業務や会議、都度の面談で提案や意向を把握し、運営に生かしている。休暇や資格取得、外部研修参加等の要望には、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力・技量・やるき・環境などを考え希望に応じた支援をしている。有給休暇等による気分転換などははかっている。積極的に有給消化に努めている。資格習得がしやすいように職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりのスキルアップを図るよう努めている。職員に対し研修・セミナーの開催などを回覧し積極的な参加をうながしている。希望に応じた勤務など支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会・研修会などの職員参加して、他事業所との連携を図るようにしている。認知症サポーターステップ研修施設として協力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の思い・不安なこと要望等を聞き、本人が安心・信頼でき安らぎが得られる関係ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族から今までの過程やご苦労を傾聴し、ご家族との関係を築いている。気軽に何でも相談できる雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族が何の支援を必要としているか、何を求めているのか見極め必要な支援・介護・医療等を提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が日々の仕事の中で、共に生活している意識を持ちいろいろと話し合い、暮らしの中で一緒に行える事は一緒に行って支えあう関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にとり、共に入居者さんをささえ信頼関係を築くように務めている。来訪時には、最近の状況・食事の摂取量・体調・受診状況等を話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等がいつでも面会に来られるように配慮している。面会時には居室かホールでゆっくりと話されている。外泊や外出には積極的に協力している。自宅までの送迎もしている。	利用者から「親しい人に会いたい」「懐かしい場所に行きたい」などの要望は殆ど聞かれないが、昔話を聞くなど思い出を共有している。家族の支援で、美容室や墓参り、自宅訪問が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや共通の趣味などを通じてお互いの関係ができるように努め、各入居者さんの個性・性格・認知状況を把握しトラブルが起きないように職員が間に入って関係を取り持つように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先等をたずねて状況を把握し、家族の相談・支援等に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から話を伺ったり、本人の日々の生活の中から会話・行動・表情・そぶり等から本人の意向や想い等をさがし検討し実践している。困難な場合は家族と相談してからフロアー会議で検討しより良い支援に努めている。	日々の会話から、食事や入浴への要望等には出来る限り応えている。伝えることが困難な利用者には、生活歴や家族からの情報を参考に、穏やかな表情になるよう会議で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの、生活習慣をご家族や本人からよく聞きフェイスシートを作成して、今までの生活習慣をできるだけ、崩さないように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌(生活状況・バイタル・排尿・排便・水分・食事量等)のチェックしスタッフ間で共有し体調変化を見逃さないように支援している。ADLの状況把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さんやご家族から意見や思いを聞き全体会議・フロアー会議で話し合いサービス担当者会議を得て見直し入居者さんやご家族の意見や思いを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成時は、日々の関わりから利用者や家族の意向を把握し、月1回の全体会議を利用して担当者会議を行い、適切な支援目標を立案している。目標の実践が容易に確認できる書式の整備を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録及び日誌に日々の記録を記入し、職員間の情報共有には連絡ノートに記入し職員が把握できるようにしている。介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況、ニーズに対応し、柔軟に対応できるように努めている。身体機能の変化に対応した柔軟な対応に取り組んでいる。外出・整容院・美容院・外泊・買い物等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭り・イベントなどで地域の人々も参加してもらいまた、施設の畑での収穫など、豊かな生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族が希望する病院を受診している。希望がない場合は、医療法人の及川医院を受診している。毎週、及川院長、看護師が来訪して状況を把握している。	24時間連絡体制の医療機関の院長(運営者)と看護師が週一度来訪し、利用者の健康状態をチェックしている。入居前からのかかりつけ医や他科受診は、家族の協力もあるが、職員が同行支援している。受診結果は、関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	及川医院の看護師が入居者さんの健康状況を把握して、職員と相談し受診の指示等している。日中・夜間の体制も及川医院の院長・看護師のとの連携で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	及川医院に入院した場合は、日頃から受診しているので院長・看護師・家族との要望に応じて対応している。他病院の場合は文書・口頭にて状況報告及び及川医院での紹介状を届ける。お見舞い等にも行き支援をする。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでい	重度化した場合や終末期はどのように対応するか常に家族と話し、意思確認をしている。重度化した場合にはどうするかかかりつけ医と、常に話し合っている。看取りについては、要望があった場合は対応する。	入居時に重篤時の対応を指針で説明し、同意書を得ている。利用者の意向は家族から伝えられており、主治医の判断を受け、家族に再確認を行い、ターミナルケア体制が開始されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、常に急変時及び事故発生時に対応できるようにしている。急変時には、及川医院に搬送している。(夜間も)		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報訓練・避難訓練(夜間も想定)・消火訓練などを定期的に年2回行っている。お祭り・運営推進会議等にて地域に対しても協力・連絡体制の依頼もしている。緊急避難場所の確認も職員で共有。	年2回、日中・夜間同時の火災想定避難訓練を18時から行っている。昨年の震災での課題を踏まえ、備蓄品を随時用意している。消防署の査察を受け、助言や意見を防災対策に生かしている。	自然災害や入浴時等のケア場面を想定しての実践的訓練と、年1回は消防署員による専門的意見を得るための指導要請、緊急連絡網に地域住民の登録と避難訓練の参加要請等の取り組みを考慮しているので、その実行に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人として尊重し、安心と尊厳のある生活が実現できるように入居者さんのプライバシーを損ねないように個々に対応している。	理念の一節に「個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活の実現」を謳っており、その実践に努めている。呼称は、基本的に名字とし、申し送り時に於いても個人を断定しないなど、職員間でも意識を統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの思いや希望をできるだけ日々取り入れ、本人の希望・できることなどを考慮し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんの個々の生活リズムに合わせた暮らしができるように、日々を大切に、その人らしい過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人・ご家族の希望に沿って、個々の状態によって身だしなみを整えている。理美容はなじみのお店にいけるように支援している。ない場合は訪問理美容を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嚥下状況・咀嚼能力などに合わせて調理し、個々の好みに合わせ、食事を楽しむことができるように支援している。職員と一緒に食事の準備等はできる入居者は現在はいない。	介護度の高さにより、利用者との食事作りは困難になっているが、常に食に関しての要望把握に努め、職員は検食として、利用者と一緒に食卓を囲んでいる。利用者の要望もあり、おやつは甘い物や果物を用意し、行事には出前寿司を注文している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(主食・副食)・水分摂取量など日々チェックし個々の記録簿に記載し確認・把握を対応している。献立は及川医院の管理栄養士さんが作っている献立を参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の口腔状態を把握し、毎食後に口腔ケアを行えない人には、口腔ケア介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で管理し職員・医師・看護師と協力しながら個々の体調・パターン・習慣などを考慮しながら自立に向けた支援をしている。寝たきりの入居者さんも可能な限りトイレで排せつできる様に対応している。	利用者の排泄状況を職員は共有し、トイレでの排泄を基本とした支援に取り組んでいる。羞恥心や不快感を取り除くツールとして、職員間で検討の上、利用者や家族の同意を得て衛生用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の生活状況・体調・食事量などを考慮しながら飲食物を工夫して便秘予防に努めている。排便回数を把握し、便秘の場合は医師に相談し下剤等を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望や体調に合わせた入浴を心がけている。楽しく入浴できるように入浴剤の使用や雰囲気づくりに心がけている。入浴日は週2回PM。特別の場合は随時入浴。拒否の場合は時間と日にちをずらして対応している。	週4回入浴できる態勢を整え、午後から週2回を基本として、同性介助や2人介助を行い、入浴支援を行っている。状況によってはシャワー浴もあるが、ゆず湯や入浴剤入りの湯船で寛いだ利用者から本音が聞かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣・体調などを考慮してその状況に応じた対応して、日中はその人にあった過ごし方をもらい夜間が気持ちよく睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個々の記録簿にファイリングし職員が薬の内容を確認できるようにしている。副作用・異変が疑われる場合には医師と連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや洗濯物タタミ、掃除の手伝いなど入居者の生活歴に応じた役割や楽しみごとなどの支援を行っている。時々買い物や散歩などを楽しんで気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況・健康状況などを考えながら、散歩のできる方車、イスで散歩できる方はしている。買い物も希望により一緒に行っている。外泊・外出の場合は希望があれば自宅等まで送迎をしている。	利用者の状況や天候に合わせて、周辺の散歩や花壇、菜園を眺めるなど外気に触れている。様々な条件が重なり、外出行事は行われていないが、その分、室内レクで楽しめる工夫に取り組んでいる。家族による外出支援が得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意をえてお金を持っている方もいるが、その他の方は、家族の同意を得てお金を預かり、お買い物のお支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんで携帯電話を使用している方もいるが、電話は職員に話せばいつでも、ホームのコードレス電話を使用できる。手紙は希望により職員がお手伝いをしたりして支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・廊下・食堂等に四季や催し物にあわせた飾り付けをしている。入居者さんと一緒に飾り付けをしている。入居者さんが心地よく日常が過ごせるよう、トイレ・居室・ロビー等、清掃・清潔には気を使っている。	明るくゆとりある造りの共用空間は、清掃や音量、温湿度に配慮がある。居間とキッチン是一体化しており、利用者とは常に生活を共にしている。季節に因んだ利用者の作品や、職員による手作りの飾り付けなどが、穏やかな雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子やソファを置き思い思いに談話・談笑できるように工夫している。入居者さん各自自分の場所がある。長椅子をたくさん置き、横になれるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんが家族と相談しながら思い思いの家具やなじみの品々を持ち込み入居者さんが居心地よく過ごせるように工夫している。	約8畳ある居室には、洗面化粧台、クローゼット、ナースコールが備え付けられ、生活しやすい環境にある。利用者にとって安心安全に過ごせるよう、馴染みの調度品や生活用品、趣味の物等が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者さん個々の状況に合わせてできることできないことをスタッフ間で話し合い日々検討し、本人が安全で自立できる生活が送れるように工夫している。安全の為、介護用ベッド使用も増えている。		